

善光寺峰街道を歩く 大町労山・泉州労山 鈴木 均

10月29日、山博（山岳博物館）友の会行事で小川村の立屋集落の奥にある「林りん館」近くの駐車場から大町市美麻湯の海（ゆのかい）まで、善光寺峰街道を歩いた。

コロナの関係とほぼ同じころの手術の後、この1年半はハードな山行を控えて古道歩きや里山を中心に登っており、峰街道は聞いたことがあるが通ったことがなく、ルートも知らないので、今回いい機会を与えてくれた。

5月に塩の道から分かれて白馬村の野平（のだいら）から鬼無里（きなさ=旧鬼無里村・現長野市）に抜ける柄山峠までの古道を歩いていたので、善光寺に通じる古道には興味があった。伝説にも多少関心があり、9月には砂鉢山にも登った。地域の歴史や文化を知ること、山は単に登る対象としての山ではなく、いにしえの人々の生活を知ることになる。

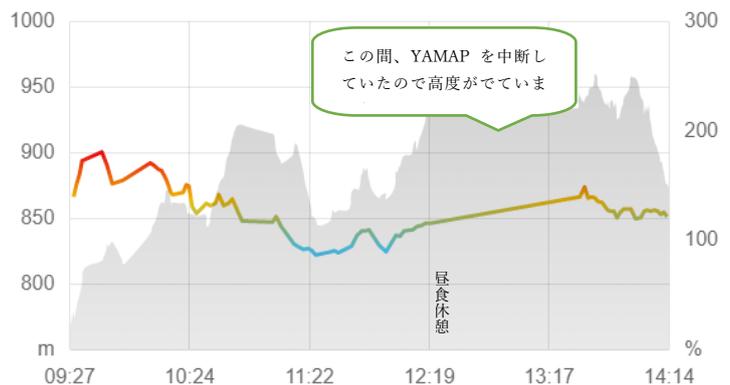
「峰街道の会」による整備のおかげで軽トラックなら通れるというメリットもあるが、古道にしては道幅が広い気がした。天気はいまいちだったが、紅葉は最高のタイミングだった。（11/10「林りん館」

に寄ってから実際に軽トラで通過してみたときは、紅葉は終わりかけだったが、北アルプスの絶景を見ることが出来た）

9時半ころスタート。所々で山博の清水隆寿学芸員の解説を聞きながら10キロ弱の道のりだった。古道をただ歩くだけでなく、学芸員の蘊蓄ある話は山や歴史を深く知ることができる。街道の呼び方のいわれや「番所」について、戦乱を逃れてわずか30年間あった「戸隠信仰遺跡」についてなど、たくさんの理解が深まった。ときどき長野方面に向かうとき小川村に戸隠神社関係の標識があることは不思議だったので、ようやく理解することが出来た。宝光院跡など三つの遺跡にはまだ行ったことがないので、折を見て訪ねたいと思う。

印象に残ったのは、「比丘尼石」（びくにいし）。戸隠神社奥社もかつては女人禁制で、それを破ろうとした尼僧の伝説や古い集落跡が点在して番所が各地に置かれていたこと、たばこ岩という巨岩など、解説いただいて初めてわかった。

おまけは、2時半ころに湯ノ海地区に下山した後、友の会の皆さんが迎えてくれ、



車で湯ノ海近くの水上神社の樹高 50m、樹齢 650 年という大杉や山城に続く道、千見
(せんみ) 番所跡の関守門など、たくさんの文化財を見学し、学ぶことが出来た。

いつの日か、立屋集落から東に向って善光寺までも歩いてみたいと思う。

